

モンゴル国におけるナショナル・アイデンティティの計量的検討

—アジアン・バロメータによる複数時点の調査データの予備的分析から—

立命館大学 湊邦生

1 目的

本報告ではモンゴル国（以下「モンゴル」）におけるナショナル・アイデンティティの諸相について、国際社会調査データからの検討を試みる。ポスト社会主義モンゴルにおけるナショナリズムの高揚や排外主義の台頭はこれまでも論じられてきたが（Hogg, 2010 等）、それらが一般の国民にどの程度共有されているのかについては、いまだ十分に検証されておらず、喫緊の課題である。

2 方法

本報告では国際調査プロジェクト「アジアン・バロメータ」によるデータのうち、ナショナリズムに関連する設問項目を含む第2回（2006年）および第3回（2010年）のものを使用する。具体的には、両者に共通する項目に着目し、回答の分布や項目間の相関等についてそれぞれ検討する。

3 結果

分析結果の概要を示す。第1に、2006年と2010年との間で、強いナショナル・プライドを示す回答や、外国の影響の排除を求める回答が減少している一方で、国家が不完全で誤りがあったとしても忠誠を持つべきとする回答が増加している。ただし、いずれの回答も両時点で多数派を占めている。第2に、両時点においてナショナル・プライド、外国の影響の排除、国への忠誠いずれの項目間でも正の相関があり、それらの相関は回答者の基本属性や海外情報との接触を制御しても残る。

4 結論

以上の結果は、モンゴルの一般国民が持つ国家への帰属という意識の強固さとともに、ナショナル・プライドや国への無条件の忠誠と、純粹主義との親和性を示す。この点から考えれば、モンゴルにおいて排外的な主張が一般に受け入れられる可能性は今後も高いといえよう。

謝辞

Data analyzed in this paper were collected by the Asian Barometer Project (2005-2008 and 2010-2012), which was co-directed by Professors Fu Hu and Yun-han Chu and received major funding support from Taiwan's Ministry of Education, Academia Sinica and National Taiwan University. The Asian Barometer Project Office (www.asianbarometer.org) is solely responsible for the data distribution. The author appreciates the assistance in providing data by the institutes and individuals aforementioned. The views expressed herein are the author's own.

本報告は JSPS 科研費 25870905 の助成を受けたものである。

文献

Hogg, C. (2010, September 5). Discontent fuels Mongolia's far-right groups. *BBC News*. Retrieved from <http://www.bbc.co.uk/news/world-asia-pacific-11141472>